

「学生による授業評価」のまとめ 2016 年度秋学期刊行にあたって

南山大学ファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会
委員長 浦上 昌則

2016 年度秋学期の「学生による授業評価」(以下、授業評価)は、2016 年 12 月 16 日～2017 年 1 月 23 日に実施されました。ご協力いただいた学生のみなさんと教員のみなさんに心より感謝申し上げます。

今回も、これまでと同様に、専任教員・非常勤教員にかかわらず、原則として、1 教員 1 科目を授業評価の対象としました。これは、すべての教員が授業評価を毎学期実施することを基本にしつつ、学生および教員に過大な負担がかからないように配慮しているためです。評価対象科目の選出ルール等の詳細につきましては、教員向けの FD 関係 Web ページに掲載されていますので、そちらをご覧ください。なお、授業評価結果の概要につきましても同 Web ページで開示しています。

1 授業評価の実施方法

① **対象科目** 各教員につき、それぞれの担当科目のうちの 1 科目が選択され、名古屋・瀬戸キャンパス合計で 566 科目が授業評価の対象となりました。

② **設問項目** 設問は 20 個あります。設問 1 から 3 までは、学生の授業参加(出席、予習復習など)を問う項目です。設問 4 から 18 は、教員の授業運営や授業全体に関して問う項目になっています。設問 19 と 20 は、到達目標に関して問う項目です。また、裏面は自由記述欄になっています。

③ **実施・回収手順** 授業評価の実施には教員が立ち会いますが、匿名性の観点から、受講生の代表者が授業評価用紙を回収し、事務担当部署に提出する方式を採っています。

④ **作業手順** 授業評価の実施(2016 年 12 月 16 日～2017 年 1 月 23 日) → 集計作業 → 教員への集計結果の通知(2017 年 2 月 8 日) → FD 委員会による自由記述の閲覧(2017 年 2 月) → 教員からの報告書提出(2017 年 2 月) → FD 委員会での結果の分析・検討(2017 年 2 月) → 「南山大学『学生による授業評価』のまとめ 2016 年度秋学期」の発行(2017 年 6 月)

2 集計結果の概要

結果の概要は、括弧つきの頁部分に記載されています。

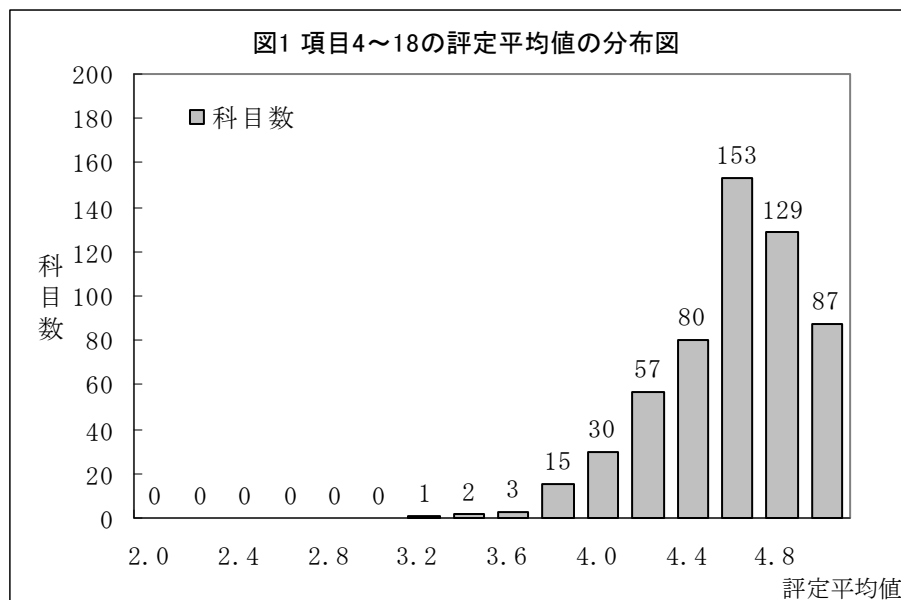
① **実施率** 大学全体では、授業評価の実施率は 99.29% (562/566 科目) でした。キャンパス別にみると、名古屋 99.19% (489/493 科目)、瀬戸 100.00% (73/73 科目) でした。

② **報告書提出率** 大学全体では、報告書の提出率は 99.66% (580 科目/582 科目) でした。名古屋 99.61% (507/509 科目)、瀬戸 100.00% (73/73 科目) でした(評価対象

科目が、演習科目のうちのいわゆるゼミ、あるいは受講者数が4名以下の科目は、学生による授業評価を実施せず、報告書の提出のみをお願いしています。この分の科目数16が、①で示した科目数にプラスされています。

③ **評定平均値** 設問1から3までの学生の授業参加を問う項目と、設問4以降の教員の授業運営や授業全体に関する項目は、性質が異なりますので、設問4から設問18について平均値を算出しています。なお、過去の平均値との比較を行うために、2014年度から新たに追加された設問19と設問20は平均値を算出する際に含めていません。電算処理が行われた557科目（回答数が4名以下の5科目は、電算処理を行っていません）の設問4から設問18の評定平均値の大学全体での平均は4.41でした。この平均値についての科目数と累積の分布を図1に示しました。

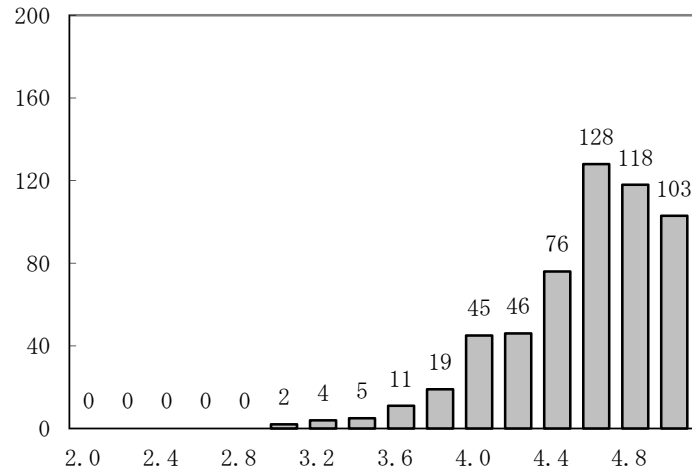
電算処理実施科目のうちの約90%の科目が、設問4から設問18の評定平均値が4.0を超えており（4.0以下が9.2%）、さらに約80%の科目が4.2を超えています（4.2以下が19.4%）。また今回、設問4から設問18の評定平均値が3.0未満であった科目はありませんでした。



項目4～17の各項目の平均値とヒストグラムは、これまでの傾向とほぼ同様なので、ここでは記述を省きます。

設問18（全体として、あなたはこの授業に満足しましたか）は、われわれが最も重視する項目です（図2-1参照）。今回、この項目の評定平均値は4.37でした。約80%以上の科目が4.0を超えています（4.0以下が15.4%）。他方で3.0未満の評価を受けている科目が2科目ありましたが、全体として、学生の満足度を十分満たしていると思われま

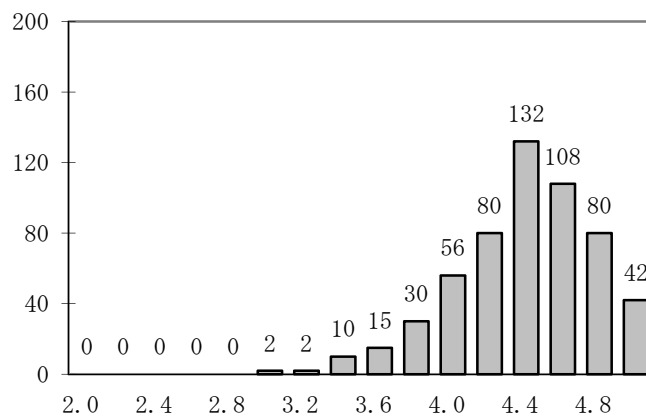
図 2-1 項目 18：全体としての授業満足度



2014 年春学期から追加された 2 つの項目の評定平均値は、設問 19（教員は到達目標の達成に向けて、授業を進めていましたか）が 4.47、設問 20（あなたは到達目標に向けて、着実に力が付いてきていると思いますか）が 4.21 でした。

設問 20 は、授業の到達目標を達成できているかどうかについて学生が自己評価をしている項目です。すべての授業や学期末の試験（レポート）が終わっていない段階での自己評価ですので、試験が終わった後ではこの評定値が変化している可能性はありますが、授業を通して学生が力を着けたかどうかを知ることができる項目です。設問 20 が 4.6 以上の科目は約 21%（4.8 以上となった科目は約 7%、計 42 科目ありました）、4.0 未満の科目は約 20%という結果でした（図 2-2 参照）。この項目の評定平均値が高く、学生が「到達目標に向けて着実に力が付いてきている」と自己評価していることは、授業の効果の一側面だと考えられます。

図 2-2 項目 20: 到達目標に向けて力が付いてきている



3 評定値の推移について

授業評価対象科目の選出方法が現行の方式となり、かつ、18 の設問で評価を求めようになったのが 2006 年度春学期からです。以下に紙幅の都合上、最近 9 期分の評定値を表にして示します。

表1 項目4から18の評定平均値(2012秋～2016秋)

年度・学期	2012 秋	2013 春	2013 秋	2014 春	2014 秋	2015 春	2015 秋	2016 春	2016 秋
全 体	4.41	4.38	4.40	4.36	4.41	4.39	4.41	4.42	4.41
名古屋	4.42	4.41	4.42	4.37	4.44	4.38	4.41	4.41	4.41
瀬 戸	4.35	4.29	4.34	4.33	4.33	4.46	4.45	4.45	4.45

表2 18項目ごとの評定平均値(2012秋～2016秋)

設問項目	2012	2013	2013	2014	2014	2015	2015	2016	2016
	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
1 授業への出席	4.21	4.26	4.20	4.37	4.24	4.35	4.28	4.34	4.28
2 授業への取り組み	4.15	4.21	4.16	4.24	4.23	4.26	4.22	4.28	4.23
3 自主的な学習の実行	3.25	3.26	3.27	3.29	3.37	3.38	3.43	3.46	3.46
4 授業時間の厳守	4.61	4.63	4.59	4.64	4.62	4.64	4.60	4.65	4.60
5 構成や速度が適切	4.5	4.5	4.50	4.48	4.50	4.51	4.52	4.53	4.51
6 到達目標の明示(※)	4.46	4.44	4.45	4.37	4.43	4.40	4.42	4.43	4.42
7 シラバスの有用性	4.36	4.34	4.36	4.30	4.37	4.36	4.38	4.39	4.38
8 教員の声	4.6	4.59	4.61	4.59	4.61	4.58	4.58	4.60	4.58
9 理解度への配慮	4.38	4.33	4.38	4.32	4.38	4.35	4.38	4.37	4.38
10 妨げ行為への対処	4.29	4.28	4.28	4.26	4.29	4.30	4.30	4.34	4.33
11 板書、配布資料	4.37	4.34	4.38	4.34	4.39	4.37	4.40	4.40	4.39
12 意欲を引き出す工夫	4.22	4.17	4.21	4.16	4.24	4.20	4.26	4.24	4.25
13 自主的学習の指導	4.26	4.22	4.26	4.20	4.29	4.25	4.31	4.29	4.30
14 質問や相談の機会	4.36	4.3	4.33	4.30	4.36	4.33	4.38	4.37	4.37
15 教員の姿勢	4.6	4.58	4.60	4.58	4.60	4.58	4.59	4.60	4.58
16 内容へのさらなる興味	4.27	4.22	4.26	4.20	4.28	4.25	4.29	4.27	4.27
17 知識・理解の深まり	4.42	4.39	4.42	4.37	4.42	4.40	4.42	4.43	4.40
18 全体としての満足度	4.39	4.35	4.38	4.31	4.38	4.35	4.38	4.38	4.37

※2014年度より学習目標→到達目標

表1は、教員の授業運営や授業全体に関して問う設問4から18の平均値を学期ごとに示したものです。大学全体の評定平均値は、既述のように4.41(2016年度春学期は4.42)となりました。これまで、春学期よりも秋学期の方が評定平均値が高いというパターンを繰り返してきましたが、2016年度はその差が小さかったようです。

表2は、9期分の18設問ごとの評定平均値を示したものです。いずれの項目も過去9期において、平均値はほぼ横ばいであり、今期独特の特徴というものはないようです。平均値の高いものについては、数値的にかなり満足できるレベルで推移していると考えます。

他方で設問 3（自主的な学習の実行）をはじめ、平均値の低い内容に対しては一層の注力が必要でしょう。しかし、設問 3（自主的な学習の実行）は、これらの設問の中でも 9 期を通して平均値に望ましい変化が見られる項目でもあります。また設問 12（意欲を引き出す工夫）、設問 2（授業への取り組み）は、2012 年度や 13 年度では平均値が 4.2 を下回る場合もありましたが、2016 年度は春、秋ともに 4.2 を上回っており、若干の改善傾向がみられるとあってよいでしょう。学生、教員双方がより真摯に授業に取り組んでいることのあるわけではないかと考えられます。このような傾向が今後も継続し、またその変化が大きなものになるよう FD 委員会でも検討していきますし、各単位でもご検討ください。

4 回答率について

「南山大学『学生による授業評価』のまとめ」評価報告書において、これまで何度も指摘されていた問題が、大教室での授業で回答率が低い科目が多いことでした。それは、回収率が低いと、情報の信頼性が損なわれるためです。今回を含む過去 9 期の大学全体の回答率、および、授業規模で 4 つに分類したカテゴリーごとの回答率の推移を算出しました（表 3 参照）。授業の受講者数が多いカテゴリーほど、また春学期よりも秋学期で回答率が低くなる傾向が続いています。今期もこれらの傾向と同様であったといえるでしょう。

「学生による授業評価」の実施の際、アンケートに協力してくれない学生も多い、との声も教員から届いています。協力しない理由を調査することも重要ではありますが、まずは教員の皆さんに、それが自身の授業改善につながるという重要性、有用性を学生に伝えていただくことをお願いしたいと思います。また学生の皆さんには、次にその授業を受ける学生のため、また本学の教育力向上のために、一層のご協力をお願いいたします。

表3 回答率(2012 年度秋学期～2016 年度秋学期)

	2012 秋	2013 春	2013 秋	2014 春	2014 秋	2015 春	2015 秋	2016 春	2016 秋
全体	59.90%	65.90%	60.60%	67.01%	60.77%	66.81%	61.04%	65.28%	61.20%
30 名以下	86.90%	88.40%	84.94%	88.71%	83.27%	88.89%	85.60%	89.60%	84.94%
31～60 名	77.90%	83.20%	79.61%	84.14%	80.40%	83.34%	82.19%	84.67%	80.62%
61～120 名	61.10%	68.50%	60.60%	70.52%	63.80%	71.89%	65.67%	69.70%	61.58%
121～240 名	53.00%	59.00%	55.24%	62.25%	56.58%	62.08%	52.93%	60.41%	56.33%
241 名以上	42.80%	50.70%	42.25%	50.02%	42.89%	52.05%	45.15%	46.86%	45.00%

5 教員ごとの結果の見方

括弧のついていない頁番号のところは、教員ごとの結果です。本報告書では、原則として1ページに2件分の結果をまとめて表示しています。

それぞれ、次の要素からなっています。

① **科目名、教員名、回答率、休講・補講回数など** 「回答率」は、登録人数のうち、実際の回答者数の割合を表しています。通常の調査と同様、回答率が極端に低い場合には、そのデータの信頼性に疑問が生じることになります。

② **レーダーチャート 2種類** 右下の図は、回答者全員の集計結果です。左上の図は、学生自身の授業参加姿勢を問う設問項目1～3の評定平均値が、3.0以上の学生だけに絞って集計した結果です。

③ **「授業評価結果を踏まえた点検・評価」** 各教員が今回の授業評価結果を踏まえて書いた報告書です。結果の自己点検・評価や、次学期に向けた改善策などが書かれています。

6 授業評価結果の活用

授業評価は、授業担当者が、自身の授業をよりよいものへと改善していくために役立つ情報を、学生のみなさんから収集するために行われます。

各授業担当者は、評価項目の評定平均値や、自由記述欄に書かれた内容を資料にして、自分の授業について点検・評価し、改善策を検討します。

このサイクルが有効に機能し、学生・教員の双方に有益な授業という場が形成されるよう、授業評価へのご協力と資料の活用をお願いいたします。

以上

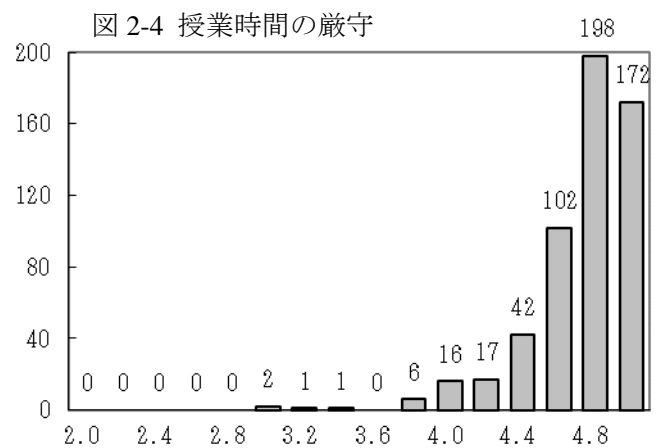
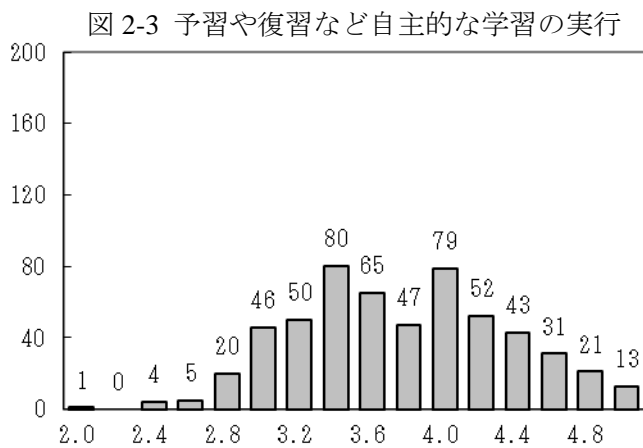
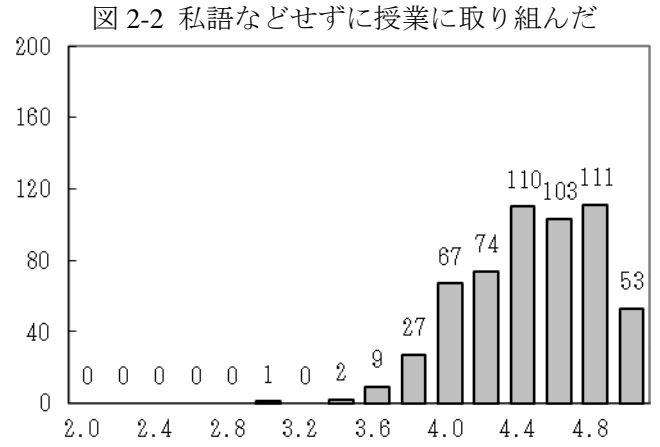
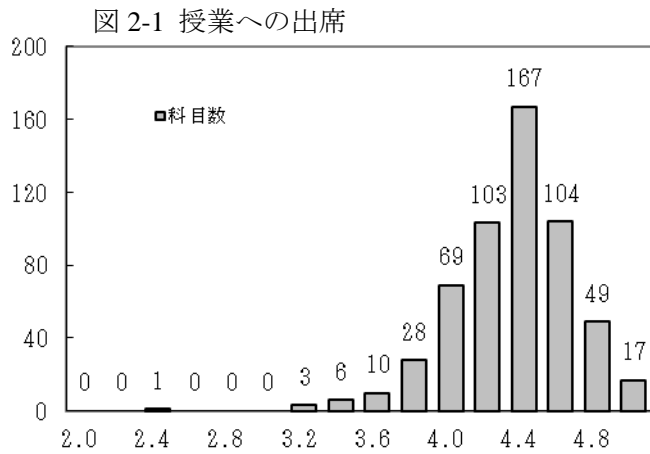
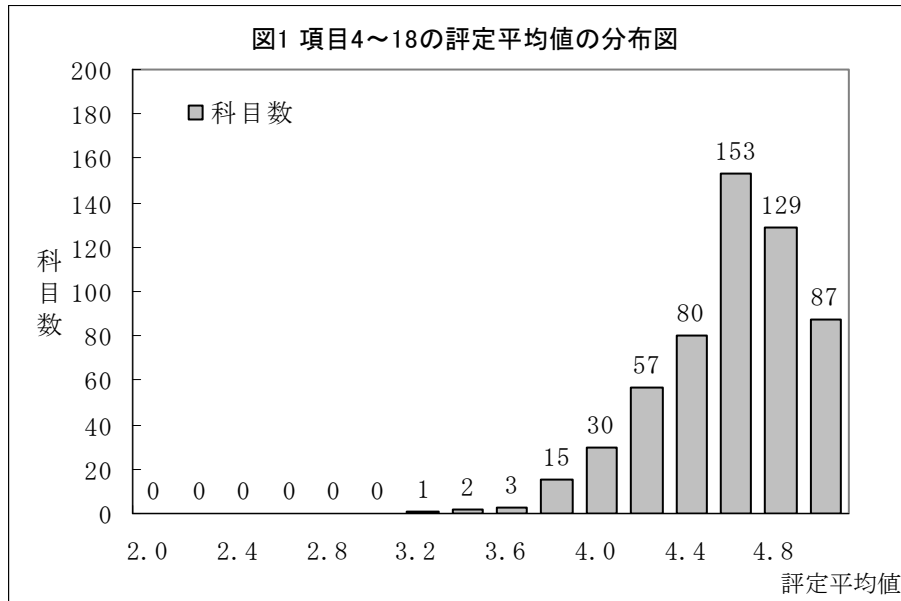


図 2-5 授業の構成や進行速度が適切

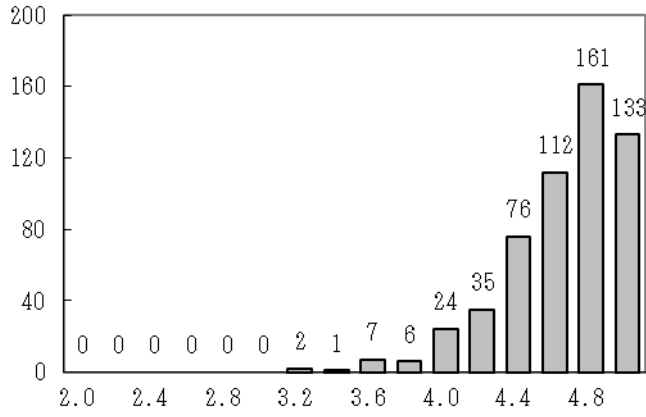


図 2-6 到達目標の明示

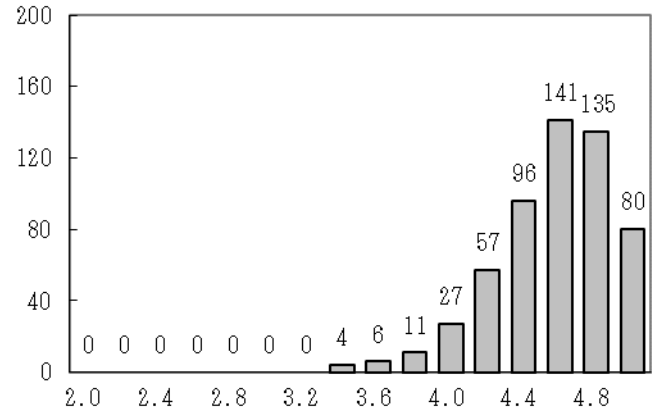


図 2-7 シラバスの有用性

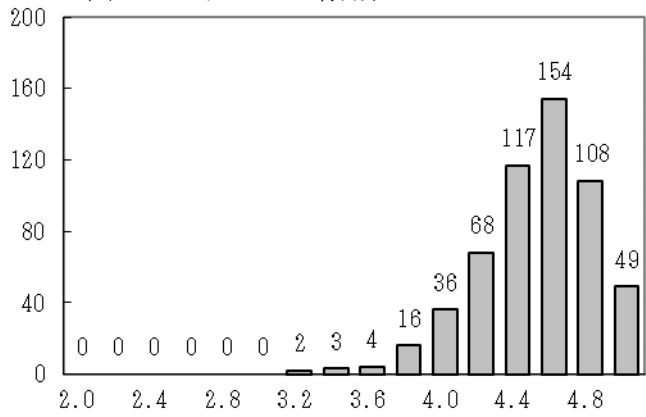


図 2-8 教員の声

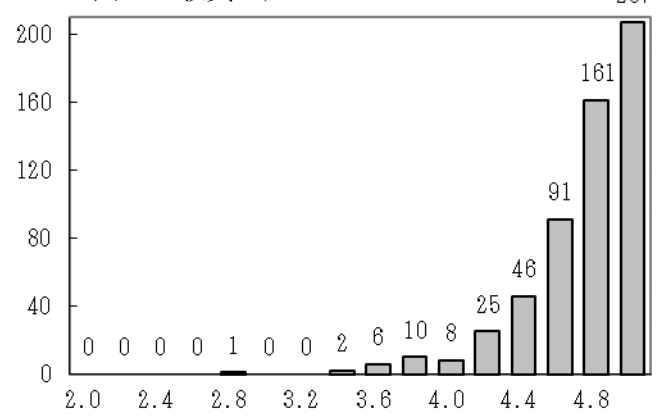


図 2-9 学生の理解度に配慮した授業の進め方

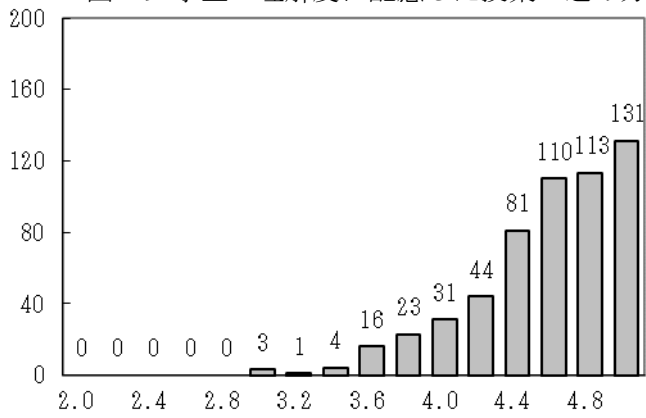


図 2-10 授業の妨げになる行為に適切な対処

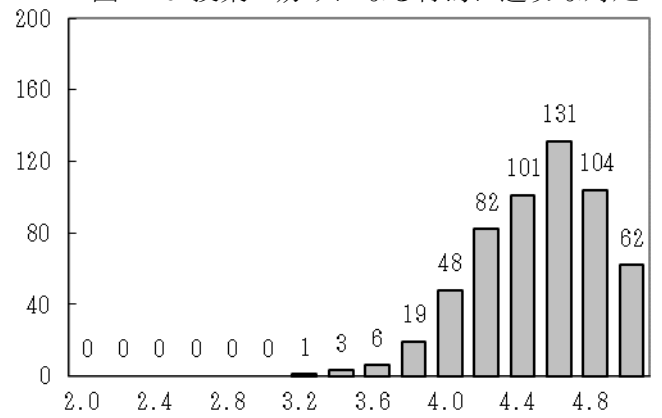


図 2-11 教科書、板書、配布資料などの効果性

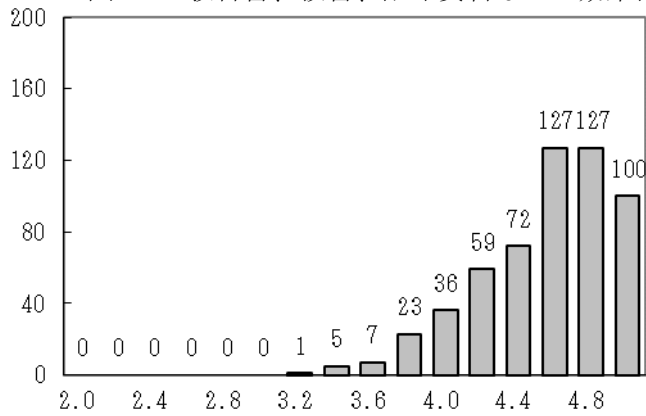


図 2-12 学生の学習意欲を引き出す工夫

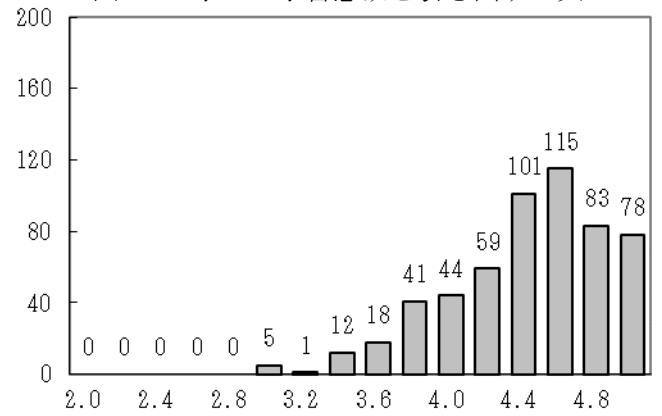


図 2-13 自主的学習のための指導・情報提供

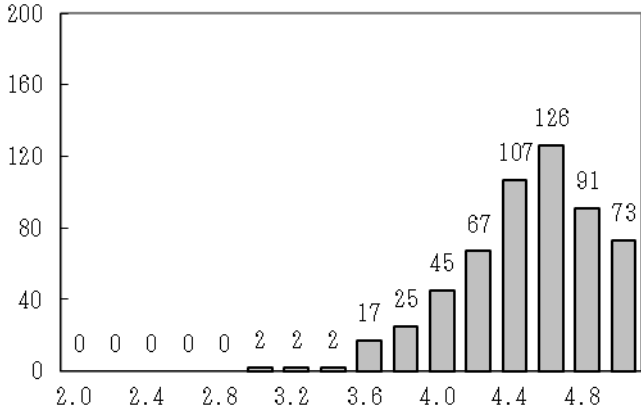


図 2-14 質問や相談の機会

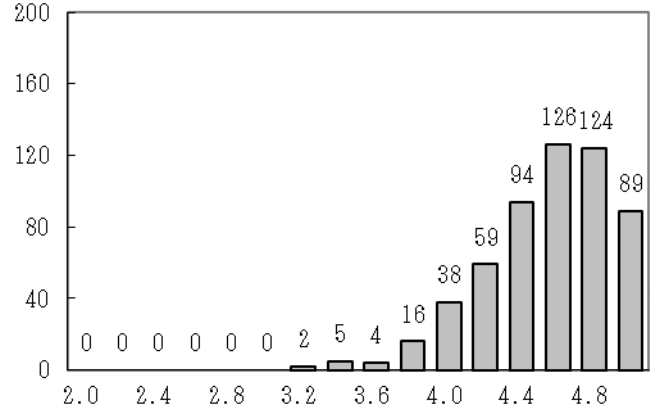


図 2-15 担当教員の姿勢の誠実さ、真剣さ

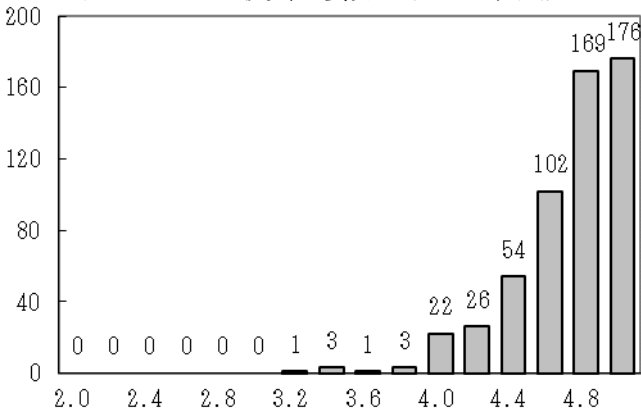


図 2-16 授業に関連する内容へのさらなる興味

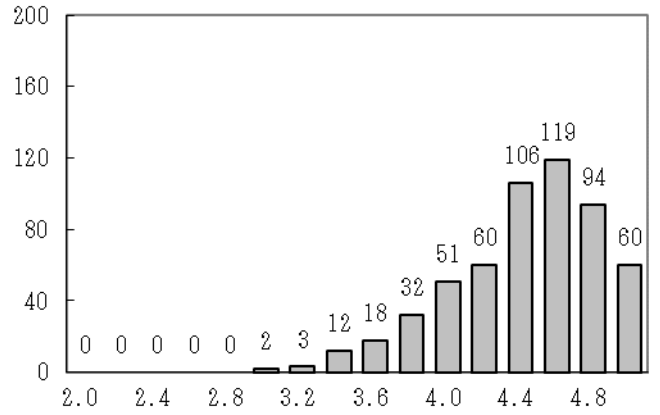


図 2-17 新しい知識や理解の深まり

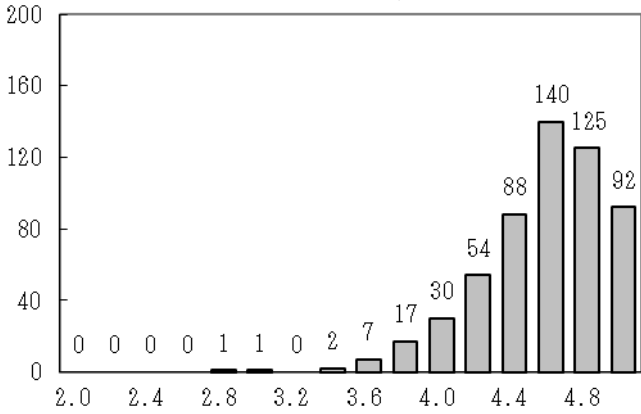


図 2-18 全体としての授業満足度

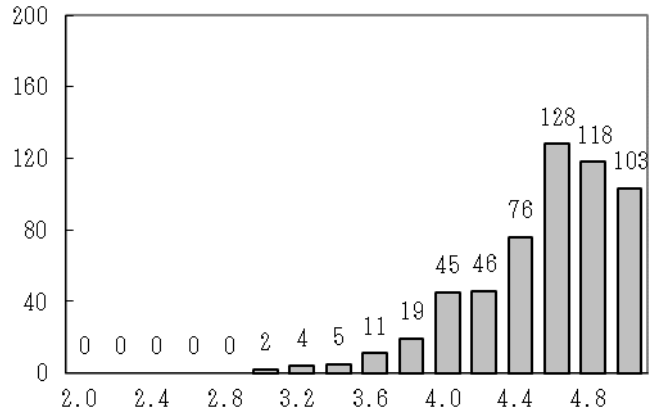


図 2-19 到達目標の達成に向けて授業は進んでいた

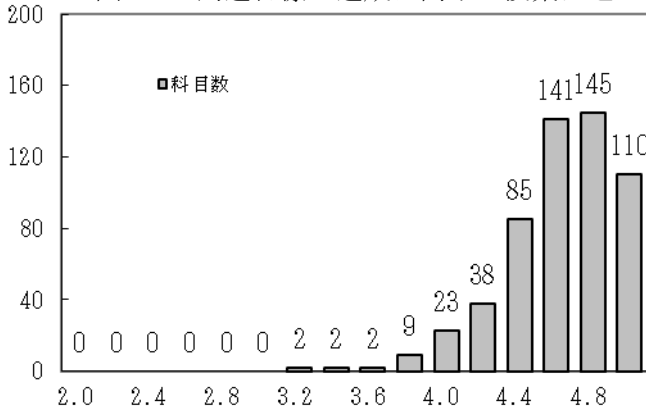


図 2-20 到達目標に向けて力が付いてきている

